

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21300248

研究課題名（和文）子どもの犯罪からの安全教育カリキュラム及びそれに基づくビデオ教材の開発

研究課題名（英文）

Development of the curriculum for the Safety education of children from the fear of crime and the DVD based on the curriculum

研究代表者

清永 賢二 (KIYONAGA KENJI)

日本女子大学・人間社会学部・客員教員

研究者番号：50277670

研究成果の概要（和文）：最終目的である「犯罪からの子どもの安全教育カリキュラム」とそれに基づく DVD を作製し、カリキュラムの有効性を検証した。これらの結果を基に子ども達対象の「犯罪からの安全学習ノート(LNC)」及び教師用の「指導書(GBT)」が作成された。こうした一連の教材が開発された結果、これらの教材を使った「安全体験施設」が静岡県の NPO 法人との共同で開発され、子どもの危機教育を行いつつある。

研究成果の概要（英文）：According to the purpose of this research, we marked up “The Teaching Curriculum and DVD” for safety education of children under the victimization of crime. Finally we certified utility of this Curriculum by testing to children and school teachers.

As a result of our research, we marked up “The Learning Note for Children with associated crime(LNC)” and “The Guide Book for Teacher(GBT)”. And by using these learning and teaching materials, we build up the Learning Instrument of Experience Safety Education for Children with NPO organization in Shizuoka prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2009年度 | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |
| 2010年度 | 9,100,000 | 2,730,000 | 11,830,000 |
| 2011年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 12,100,000 | 3,630,000 | 15,730,000 |

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学

キーワード：安全推進、安全教育、カリキュラム、安全教育教材、安全基礎体力、安全教育指導書、子どもの犯罪被害

1. 研究開始当初の背景

子どもの犯罪被害事件が多発し、それを防止するための「安全教育推進」のための授業

カリキュラム及び補助教材としての視覚教材（DVD）が求められていた。

2. 研究の目的

子どもの安全教育のための発達段階に応じたカリキュラムの開発とDVDの作成

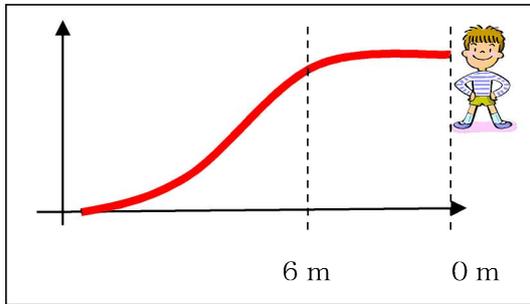
3. 研究の方法

事件事例等を基に作成されたカリキュラムとDVDを実際に子ども及び先生（保護者）に提示し、その有効性を質問紙にて計測した。その結果を基に「子ども指導用の「安全学習ノート」及びその指導を行う教師用の「指導書」を作成した。

4. 研究成果

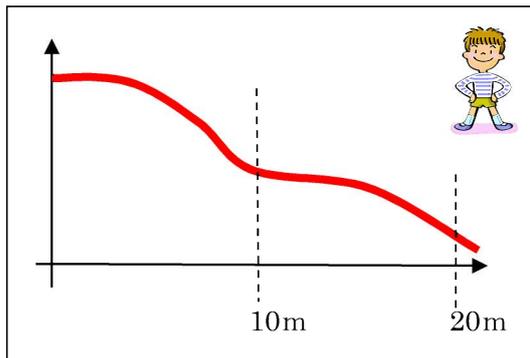
(1) 犯罪者の襲撃行動に関する実験

元犯罪者を被験者とし、彼らが被害者(子ども)をどの距離から襲うかを実験した。結果として子どもの前方20メートルから襲撃行動(「やる気加速行動」)は始まり、被害児童の手前6メートルから一気に襲いかかることが判明した。



(2) 犯罪者のあきらめ行動に関する実験

元犯罪者を被験者とし、被害者(子ども)がどの位逃げたら襲撃を諦めるか(「やる気減速行動」)の距離を実験した。結果として子どもが20メートル以上逃げれば諦めることが判明した。

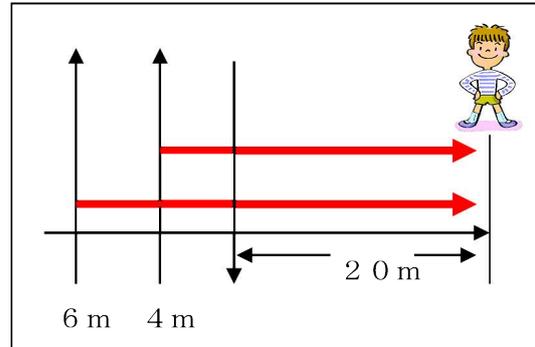


(3) 被害者の逃走可能距離に関する実験

被害児童と犯罪者の走る能力は当然異なる。被害児童が20mを走りきり犯罪者の追跡を諦めさせるには、犯罪者が接近する手前から走り出さねばならない。その距離を実験によって求めたところ、男女や年齢に関わらず被害児童は犯罪者の手前6mと4mから

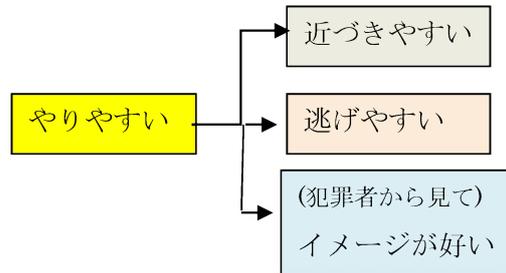
走り出さねばならないことが明らかとなった。

手前6mの場合は背中にカバンや手にザックを持たない場合である。4mの場合はカバンやザックといった走るのに負荷の掛かる物を所持しない場合である。



(4) 犯罪者の「やる気」の構造

子どもを狙った犯罪者が潜みやすい場所として「入りやすく」「見えにくい」場所として流布されている。この説に対し、犯罪者は「それは侵入盗犯の場合であり」それ以前に「やる気」になるかどうかの問題のあることが263名の犯罪者調査から明らかとなった。そしてこの「やる気」は、以下の3の下位の枝から成り立っていることが6名の犯罪者へのヒヤリングから明らかとなった。



(5) 被害に遭いやすい子どものタイプ

事件事例568例を集計し、以下のタイプを抽出した。

服装がだらしない子、服やクツ・ボウシをダラリと着た被った子
きっぱりしない子・ダラダラした子
一人だけにいる子・一人だけになる子
だれから話しかけられても、すぐつきあってしまう子・いやなことはイ〜ヤとキツパリいえない子
なぜ?、どうして?と聞けない子・ウ〜んとだまりこんでしまう子
注意力のない子・ウロウロ、キョロキョロ、チョロチョロする子
大人びたかっこうをしたがる子・可愛い子
抵抗力(力がない)が弱々しい子

(6) 安全教育カリキュラムの中心課題
以上の結果を基に、子ども達に求められる危機回避行動分析を実施、必用最低限な能力を抽出し、さらに全国の小中学校に必要性の判定を求め、以下に示すように各学校学年別の安全教育カリキュラムのコアを定めた。

| | 体の力 | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|----|----------------|------|------|--------|---------------|--------------|-------|----|-----------------|-------------|
| | 歩く | 見る | 挨拶する | すれ違う | 引き返す | キップリ断る | 走る | | 防犯フザー | 大声 | 後ろから | |
| | | | | | | | かばんなし | かばんあり | | | ロケットダッシュ | 噛む |
| 1年生 | ● | | ● 親しく知ってる人に | ○ | ○ | ● | ● (ともかく走る) | | ● | ● | ● (どんでも噛みつく) | ● |
| 2年生 | ○ | ● | | ○ | ● | ● | ○ (ともかく走る) | | ○ | ○ | | ○ |
| 3年生 | | ○ | ● (町の人に) | ● | ○ | ○ | ● (20m走る) | ● (20m走る) | ● | ○ | ● | ○ (寝転がる) |
| 4年生 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5年生 | | ○ | ● (通りすがりに) | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 6年生 | | | | ○ | ○ | | | ● | | | | |
| 中学1年生 | | | | ○ | ○ | | ● | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|--|--|---|---|--|--|--|--|--|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 中学2年生 | | | | ○ | ○ | | | | | | ● | | | | | | | | | |
| 中学3年生 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ● | | | | | | | | |

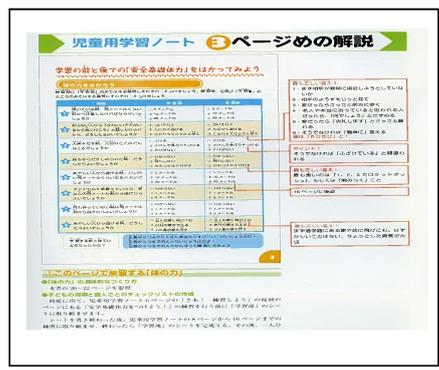
●は特に重点的にその学年段階で行う項目

(7) 犯罪からの「学習ノート」の作成
以上のカリキュラム内容を下敷きに子ども達が実際に学ぶ「学習ノート(18頁)」とその際の教師の「指導書(16頁)」を作成した。

学習ノート(表紙)



指導書(3頁目)



(8) 能力診断リスト
これらの安全教育を学習する以前、以後に安全に対する能力にどのような違いが生じたか、安全教育のどの点が不十分であったかを診断するためのチェックリストが、全国の児童・生徒を対象の調査の結果、以下のように作成された。同テストを実施した結果、ここで試みられた安全教育が十分な効果を持つことが検証された。

体の力診断表

学習の前と後での「安全基礎体力」をはかってみよう

体の力をはかる

練習前に「学習前」のあてはまる番号にそれぞれ○をつけましょう。練習後、今度は「学習後」のところのあてはまる番号にそれぞれ○をつけましょう。

| 問題 | 学習前 | 学習後 |
|---|--|--|
| ★ 歩いている時、荷メトルくらい前から注意しなければなりませんでしょうか | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル |
| ★ 知らない人から「かわいい字が書いてあるから奥に行こう」と話しかけられたら、どうしたらよいでしょうか | ① ついて行く ② とにかく逃げる ③ ことわってさっさと早く | ① ついて行く ② とにかく逃げる ③ ことわってさっさと早く |
| ★ 火事をたす時、大切なことはどんなことでしょうか | ① 逃げろ ② せきんで身ぶりをつける ③ 逃げばない | ① 逃げろ ② せきんで身ぶりをつける ③ 逃げばない |
| ★ 後ろからだきしめられた時、どうしたらよいでしょうか | ① わからない ② 何もしない ③ かみつくとけだす | ① わからない ② 何もしない ③ かみつくとけだす |
| ★ あやしい人から逃げるとき、だいたいの荷メトルくらい走るとよいでしょうか | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル |
| ★ ランドセルを背負っていたら、知らない人の荷メトル前から逃げたらよいでしょうか | ① わからない ② 1メートル ③ 6メートル | ① わからない ② 1メートル ③ 6メートル |
| ★ 何も持っていない時は荷メトル前から逃げたらよいでしょうか | ① わからない ② 1メートル ③ 4メートル | ① わからない ② 1メートル ③ 4メートル |
| ★ あやしい人から逃げるとき、どうしたらよいでしょうか | ① 近くの家に飛びこむ ② 自分の家まで走る ③ 110番の家を探す | ① 近くの家に飛びこむ ② 自分の家まで走る ③ 110番の家を探す |

学習する前と後ではどうなったかな？

正答が6つよりたくさんある人＝すてーい、だいじょうぶだ！
 正答が5つまでの人＝だいじょうぶだよ！
 正答が3つまでの人＝がんばって練習してみよう

社会の力診断表

学習の前と後での「安全基礎体力」をはかってみよう

体の力をはかる

練習前に「学習前」のあてはまる番号にそれぞれ○をつけましょう。練習後、今度は「学習後」のところのあてはまる番号にそれぞれ○をつけましょう。

| 問題 | 学習前 | 学習後 |
|---|--|--|
| ★ 歩いている時、荷メトルくらい前から注意しなければなりませんでしょうか | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル |
| ★ 知らない人から「かわいい字が書いてあるから奥に行こう」と話しかけられたら、どうしたらよいでしょうか | ① ついて行く ② とにかく逃げる ③ ことわってさっさと早く | ① ついて行く ② とにかく逃げる ③ ことわってさっさと早く |
| ★ 火事をたす時、大切なことはどんなことでしょうか | ① 逃げろ ② せきんで身ぶりをつける ③ 逃げばない | ① 逃げろ ② せきんで身ぶりをつける ③ 逃げばない |
| ★ 後ろからだきしめられた時、どうしたらよいでしょうか | ① わからない ② 何もしない ③ かみつくとけだす | ① わからない ② 何もしない ③ かみつくとけだす |
| ★ あやしい人から逃げるとき、だいたいの荷メトルくらい走るとよいでしょうか | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル | ① 5メートル ② 10メートル ③ 20メートル |
| ★ ランドセルを背負っていたら、知らない人の荷メトル前から逃げたらよいでしょうか | ① わからない ② 1メートル ③ 6メートル | ① わからない ② 1メートル ③ 6メートル |
| ★ 何も持っていない時は荷メトル前から逃げたらよいでしょうか | ① わからない ② 1メートル ③ 4メートル | ① わからない ② 1メートル ③ 4メートル |
| ★ あやしい人から逃げるとき、どうしたらよいでしょうか | ① 近くの家に飛びこむ ② 自分の家まで走る ③ 110番の家を探す | ① 近くの家に飛びこむ ② 自分の家まで走る ③ 110番の家を探す |

学習する前と後ではどうなったかな？

正答が6つよりたくさんある人＝すてーい、だいじょうぶだ！
 正答が5つまでの人＝だいじょうぶだよ！
 正答が3つまでの人＝がんばって練習してみよう

5. 主な発表論文等
 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
 [雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)
 ① 清永奈穂、清永賢二、日本安全教育学会
 発表表題：「小学校段階及び中学校段階における子どものイメージする不審者像の研究」
 発表年月日：平成23年9月18日
 発表場所：上越教育大学

[図書] (計2件)
 ① 清永賢二監修、田中賢、篠原惇理、清永奈穂、ミネルヴァ書房、犯罪からの子どもの安全を科学する、2012年、230頁
 ② 清永賢二、清永奈穂、ミネルヴァ書房、よくわかる教育学原論、2012年、220～223頁

[産業財産権]
 ○出願状況 (計0件)
 ○取得状況 (計0件)

[その他] なし

6. 研究組織
 (1) 研究代表者
 清永 賢二 (KIYONAGA KENJI)
 日本女子大学・人間社会学部・客員教員
 研究者番号：502277670

(2) 研究分担者
 小山 高正 (KOYAMA TAKAMASA)
 日本女子大学・人間社会学部・教授
 研究者番号：20143703